

城戸かれんさん & 毛利文香さん応援レポート

ラ・ルーチェ弦楽八重奏団 Vol.3

2016年7月1日(金)

JTアートホール アフィニス

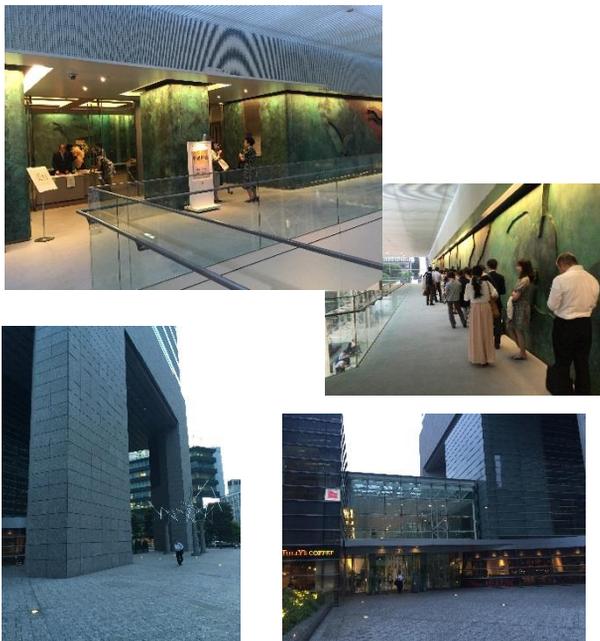
結成当初の目標でもあった3回目公演

ラ・ルーチェ弦楽八重奏団。同世代で室内楽の楽しみを共有したいという思いから、東京藝術大学4名と桐朋学園大学4名のメンバーによって2013年6月に結成されたオクテット(八重奏団)だ。

常に質の高い演奏を求め、その時々で「今だからできる音楽を全力で表現する仲間」として活動を続け、2014年から1年に1度の「La Luceシリーズ」を開催してきた。

結成当初の目標ともなる3回目の今年、記念すべき今回は、オール・オクテット・プログラム。ブルッフ、メンデルスゾーン、エネスコのそれぞれ弦楽八重奏曲が演奏される予定である。

会場は東京・虎ノ門のJTアートホール・アフィニス。室内楽やリサイタルなどのクラシック音楽を中心としたコンサート会場である。



本日のチケットは早々に完売。なかなか聴く機会のないオクテットを楽しみに、多くの方々が来場されている。

留学を始めたメンバーもおり、8人のスケジュール合わせも大変だったとのこと。「...限られた時間の中で充実したリハーサルを行うことができます。最高の演奏会にしたいと思います！」と、毛利さんからコメントも届いている。

仲間とともに『今』を楽しむ



写真: ©木村敬一氏

8人が登場。演奏会が始まる。
黒の衣装で揃えた8人、シックに
大人っぽく登場。

本日は、オール・オクテット・プロ
グラム。これまでは五重奏、六重
奏などもプログラムに含めていた
が、当初目標としていた3回目の
演奏会ということで、3曲とも
八重奏という贅沢な構成だ。

始まりはブルッフの弦楽八重奏曲。
美しいヴィオラの音でスタート。
流れるような旋律、のびやかな旋律が
心地よい。
2曲目、メンデルスゾーン。
第1ヴァイオリンは城戸さんだ。こちら
は第1回の演奏会でも披露した曲、
オクテットの名曲である。
「…一昨年は組んでまもなく、手探り
な感じもありました。回を重ねるごと
に友達として仲良くなり、本番で違
うことをしても、違った反応で返
してくれる、その場の対応が、演
奏でできるようになってきたこと
を感じています」と城戸さん。艶
のある美しい音色を聴かせて
くれた。



写真: ©木村敬一氏



休憩後、女性陣は衣装を替えて登場。華やかさに客席からも声があがる。

3曲目のエネスコが始まる。第1ヴァイオリンは毛利さんだ。複雑な構成、民族的な香りも感じる「カッコいい」曲だ。

「…どのパートを出して、それを他のパートがどう支えるか、また、長いフレーズの中でどのくらいの強弱で始めて、どう盛り上げていくかなどを考えるのが難しい曲」だと毛利さん。

弦楽器8本ならではの豪華、かつ迫力ある演奏。完売満席の客席からの大きな拍手。

アンコールには「卵の殻をつけた雛の踊り」。雛のさえずりのような、おちゃめな演奏&愛らしいアクションに、聴衆のみなさんも大喜び。最後は圧巻の「リベルタンゴ」で締めてくれた。

大成功の本番。

リハのときには8人の都合が合わず、全員が揃わないこともあったとのこと。それはそれで、いつも聴こえない音が聴こえて工夫につながったり、8人揃うと、また違う印象があったりと、全てが刺激であり学びであったもようだ。

それぞれが輝きを増す八人の「今」



写真: ©木村敬一氏

終演後の城戸さんと毛利さんに、話を聞いた:

— 8本、きれいに合っていました;
「・・・呼吸で合わせます。練習を重ねて、どう感じるかを揃えていきます。弾き方は各人それぞれ違いますが、曲のイメージを合わせ、各人がいろんなアイデアを出し合っ
て、作り上げていきました」(毛利さん)。
「・・・お互いに、そのときどきで、人の音を聴いて反応ができるようになりました。仲が
いいからこそ、演奏で会話するような感じが
できています」(城戸さん)。

8人はそれぞれに大活躍。成長されている時期でもある。

「・・・留学を始めた方々のパワーアップした演奏を間近で聴き、刺激にもなっています」と城戸さん。まさに切磋琢磨。
「・・・8人で弾くというのはすごく楽しいです。3回目となり、みんながどういう弾き方を
するかもわかってきているので、いい意味で
まとまりが出てきています」と毛利さん。



ラ・ルーチェ八重奏団、12月にはモーツァルト協会、来年には関西での演奏会の話もあるとのこと。

当初の目標であった3回目公演を終え、次なる目標が生まれているようだ。

城戸さん、毛利さんは、この夏も演奏会の予定が目白押し。

「・・・いただいている本番を一つ一つ、丁寧に演奏していきたい」(城戸さん)とコメントをくれた。

城戸さん、毛利さん、素敵な演奏でした。また聴かせてください!

<演奏会概要>

◆出演

ラ・ルーチェ弦楽八重奏団

大江 馨、城戸かれん

小林 幸成、毛利文香(ヴァイオリン)

有田 朋央、田原綾子(ヴィオラ)

伊東 裕、笹沼 樹(チェロ)

◆プログラム:

ブルッフ: 弦楽八重奏 変ホ長調

メンデルスゾーン:

弦楽八重奏曲 変ホ長調 Op.20

エネスコ: 弦楽八重奏曲 ハ長調 Op.7

◇アンコール曲

ムソルグスキー/山中惇史編:

組曲「展覧会の絵」より

卵の殻をつけた雛の踊り

A.ピアソラ/山中惇史編:リベルタンゴ

【コンサート・フライヤー(表)】



ラ・ルーチェ弦楽八重奏団

Program
フルツ
弦楽八重奏曲
変ロ長調
スチリスナー
弦楽八重奏曲
変ホ長調 Op.20

弦楽八重奏曲
ハ長調 Op.7

2016
7.1 [金] 19:00開演 (18:30開場)
J Ⅱ アートホール アフィニス

料金【全席自由】：一般 3,000円 学生 2,000円 (50歳限定)
※学生割引、ファミリー、高齢者70歳以上の優待は行いません。

チケットの申込み
チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード: 289-167]
ラ・ルーチェ事務局 laluce.octet@gmail.com
(氏名、住所、電話番号、チケット枚数・枚数を明記の上、お申し込みください。)

NO. AMATI

vol.3

UCE OCTET

【コンサート・フライヤー(裏)】



ラ・ルーチェ弦楽八重奏団は、同世代で室内楽の楽しさを共有したいという思いから、東京藝術大学4名と桐朋学園大学4名のメンバーによって2013年6月に結成されました。常に質の高い演奏を求め、その時々で「今だからこそできる音楽」を全力で表現していきたいと思ひます。今回は第三回目を記念して、オール・オクテット・プログラムに挑みます！それぞれが輝きを増している八人の「今」を、どうぞお聴き逃しなく！

ラ・ルーチェの演奏会も、節目となる3回目を迎えました。その間、メンバーはそれぞれ勉強の場を海外に移し、その技術も音楽も研鑽を深めています。過去2回も素晴らしい演奏でしたが、今回はさらなる飛躍を遂げた演奏を聴かせてくれることでしょう。演奏会が今から楽しみでなりません。

徳永二男(ヴァイオリニスト)

LA LUCE OCTET

JT アートホール アフィニス

(〒106-8422 東京都港区虎ノ門2-2-1 JTビル2F)



- 地下鉄副都心
「虎ノ門駅・3番出口」より徒歩4分
- 地下鉄副都心-南北線
「溜池山王駅・9番出口」より徒歩5分
- 地下鉄日比谷・千代田・丸の内線
「溜池山王駅・A13番出口」より徒歩7分

VIOLIN

大江 馨 Kaoru Oe

第82回日本音楽コンクール第1位。これまでにNHK交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、東京シティアカデミー交響楽団、神奈川フィルハーモニー交響楽団等と共演。現在、ドイツのクローネンベルクアカデミーにてクリスチャン・ツァラフ氏に師事。

城戸 かれん Kaori Kato

全日本学生音楽コンクール、ミケランジェロ・ロ・アヴィンティンコンクール第1位。東京藝術大学附属高校1年在学中に第14回地方ホール音楽賞、第79回日本音楽コンクール第2位を受賞する。現在、東京藝術大学3年に在学、学内にて最優秀を受賞。法政女子、福正文芸高校に師事。江崎純史氏に師事。

小林 志成 Issei Kobayashi

第84回日本音楽コンクール第3位ほか上位入賞多数。[財]ヤマハ音楽教育学校、NYCカーネギーホール、イタリア芸術遺産協会ほか、ヴェンゲローフ・フェス、北九州国際音楽祭等出演多数。ヴェンゲローフ、オトリス、嵐城史紀氏らと共に、現在、東京藝術大学3年在学中。H.ツァラフ氏に師事。

毛利 文香 Fumika Mohri

第88回ワタリ国際音楽コンクール第1位、第54回バダリニ国際ヴァイオリンコンクール第2位、エリザベート王妃国際音楽コンクール2015第2位、川崎 作アザリア賞、横浜文化賞文芸・芸術賞最優秀賞。現在、ドイツのクローネンベルクアカデミーにてエリザベート・マーティン氏に師事。

VIOLA

有田 朋央 Tomohiro Arita

2014年セシール・アロンゾヴィッチ国際ヴァイオリンコンクール(イザリス)のファイナリスト。これまでにルフェルラン国際音楽祭(スイス)、芝罘国際音楽祭、ル・ボン国際音楽祭、小津国際室内楽アカデミー賞などに参加・出演した。現在、東京藝術大学3年在学中。市野原俊氏に師事。

田原 綾子 Ayako Tahara

東京音楽コンクール演奏部門第1位及び最優秀、ルーマニア国際音楽コンクール全部門グランプリ。読売日本交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団と共に、現在桐朋学園大学音楽学部3年在学中。岡田幸夫、藤原昌泰氏に師事。ロームミュージックファンタジーに在学中。

CELLO

伊東 裕 Yu Ito

日本音楽コンクールジュニア部門1位受賞。最大にて最優秀、安宅賞、アカシヤス音楽賞受賞。関西フィル、日本センチュリー交響楽団、神戸市室内合奏団等と共に、東京交響、山崎伸子、中本麗二氏に師事。東京藝術大学3年在学中にて卒業。現在、同大学音楽研究科修士課程に在学中。

菅沼 樹 Tatsuki Suganuma

全日本学生音楽コンクール第1位、ザルツブルク・モーツァルト国際室内楽コンクール2013第1位、東京音楽コンクール第2位、日本音楽コンクール入賞。桐朋学園大学ソリストタイプロコース、並びに早稲田大学文学部英文科4年在学中。ヤマハ音楽奨励生。稲佐達氏に師事。

ラ・ルーチェ弦楽八重奏団
オフィシャルウェブサイト
<http://laluceoctet.wix.com/laluce-official-web>

ラ・ルーチェ弦楽八重奏団
オフィシャルブログ
<http://ameblo.jp/laluce-string-octet/>

Facebook
Twitter

「ラ・ルーチェ弦楽八重奏団」で検索

【コンサート・プログラム】

【Violin】

大江 碧 Kaoru Oe
第82回日本音楽コンクール第1位。これまでにNHK交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、東京シニアフィルハーモニー管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団等と共演、タロンニエタアカデミーにてタリシヤン・テツツツ氏に師事。

坂戸 杏林 Karen Kido

2010年、第14回地方ホール音楽賞、第79回日本音楽コンクール第2位を受賞。2016年、ホール・ニールセン国際ヴァイオリンコンクール第4位、豊田、森原朝子、堀江文の各氏に師事。徳永二男氏、川崎隆夫氏のレッスンを受け、東京藝術大学4年在学中、甲内にて福島貴、安宅貴を受賞。江崎記念財団奨励学生。

小林 宏成 Issai Kobayashi

第84回日本音楽コンクール第3位ほか上位入賞多数。松方ホール音楽賞受賞。ロームミュージックファンデーション及び山形県奨励学生。NYCカーネギーホール、イタリヤ音楽院各地ほか、ヴェンゲロフ・フェス、北九州国際音楽祭等出演多数。東京藝術大学4年在学中、神尾史氏に師事。

毛利 文香 Fumika Mohri

第8回ソウル国際音楽コンクール第1位、第34回バグノー国際ヴァイオリンコンクール第2位、エリザベト王妃国際音楽コンクール2015第4位。川崎市アゼリア舞踊、横浜文化賞文化・芸術奨励賞、青山音楽賞新人賞受賞。タロンニエタアカデミーにてミレーラ・ワーティン氏に師事。江崎記念財団奨励学生。

【Viola】

有田 研史 Tomohiro Arita
2014年パシフィック・アロハヴァイオリン国際ヴァイオリンコンクール(イギリス)のファイナリスト。ルヴェルン音楽祭(スイス)、宮崎国際音楽祭、北九州国際音楽祭、ル・ボン音楽祭等に出演。橋本フィルハーモニーと共演。東京芸術大学4年在学中、市川俊彦氏に師事。

田原 綾子 Ayako Tahara

東京音楽コンクール弦楽部門第1位及び聴衆賞、ルーマニア国際音楽コンクール金賞部門グラプリ、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団と共演。桐朋学園大学音楽学部4年在学中、岡田伸夫、藤原弘徳各氏に師事。宗次エリクソン基金、ロームミュージックファンデーション奨励学生。

【Cello】

伊東 裕 Yu Ito
日本音楽コンクールチェロ部門第1位受賞。最大にて第2賞賞、安宅賞、アカササ音楽賞受賞。関西フィル、日本セシムリヤ交響楽団、神戸市室内合奏団等と共演。森澤隆史、山崎伸子、中尾健二各氏に師事。東京藝術大学を卒業して卒業、同大学音楽研究科修士課程に在学中。

葉田 耕 Tatsuki Sasamura

全日本音楽コンクール1位、ザルツブルグ・カメルン国際ヴァイオリンコンクール1位、東京音楽コンクール2位、日本音楽コンクール入賞。桐朋学園ソリストディプロマコース、学習院大学文学部音楽科4年在学中、ヤマハ音楽奨励学生、ロームミュージックファンデーション奨励学生。堀内氏に師事。



La Luce vol.3

ラ・ルーチェ弦楽八重奏団

2016年7月1日(金) 19時開演
JTアートホール アフィニス

主催:ラ・ルーチェ事務局 協力:AMATT

La Luce vol.3

July 1, 2016

ラ・ルーチェ弦楽八重奏団

～『今』を奏しむ～

ラ・ルーチェ弦楽八重奏団は、同世代で室内楽の楽しみを共有したいという思いから、2013年6月に結成されました。弦楽八重奏曲を中心に、五重奏以上の編成の室内楽作品をレパートリーとして、2014年から1年に1度の『La Luceシリーズ』を継続してきました。今回は、結成当初の目標でもあった第三回を記念して、オーケストラプログラムに取り組みます。エネルギー溢れる私たちの『今』をどうぞお楽しみください！

(プログラム)

ブルッフ：弦楽八重奏曲 変ロ長調 Op.20
B. Bruch: String Octet in B-flat Major

メンデルスゾーン：弦楽八重奏曲 変ホ長調 Op.20
F. Mendelssohn: String Octet in E-flat Major, Op. 20

—休憩—

エネスコ：弦楽八重奏曲 ハ長調 Op.7
G. Enescu: String Octet in C Major, Op. 7

楽曲解説

ブルッフ：弦楽八重奏曲 変ロ長調 Op.20
メンデルスゾーンは、音楽教師で有名なソプラノ歌手であった母から教育を受け、11歳で室内楽や管弦楽作曲を作曲するなど、早くからの才能を示した。優秀な楽師を輩出した作品を輩い出したこと知られており、当時の特

に声楽の分野で人気を集めた。しかし今日では「ヴァイオリン協奏曲第1番」を極め、器楽楽曲を盛り上げられることが多い。この弦楽八重奏曲は2曲の弦楽五重奏曲に続き、ドイツの有名なヴァイオリニスト、ヴィン・ヘストとの協奏曲のために書かれたものである。一度は同じく弦楽五重奏曲に作曲し

りとしたが、それを基に改作して完成させた。ブルッフによって最高の大規模作品である。

【第1楽章】Allegro moderato
高貴で美しいヴァイオリンの主題がヴァイオリンへと引き継がれ、それが徐々に動きを増しながら展開する。旋律も徐々に変化しながら、華やかでユーモアと向かう。

【第2楽章】Andante
高貴が生まれた民謡の旋律は洋曲のリズムで始まるこの楽章からは、一度は次第に大膽な動きへと変換し、終局的な雰囲気が醸成される。途中で転調し、穏やかな旋律が響けられる後半部分も印象的。

【第3楽章】Allegro molto
軽快の動きを主としたリズムとトレモロにより主眼が際立られ、明るく大らかな第2主題との対比を繰り返しながら、力強いフィナーレにより曲が締められる。(田原 綾子)

メンデルスゾーン：弦楽八重奏曲 変ホ長調 Op.20
メンデルスゾーンの弦楽八重奏曲 Op.20 は、フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ(1809～1874)の僅か16歳の時の作品である。いわゆる「神童」で、あつた頃の初期の作品の所々は、彼の両親の死で折れた才能の遺憾のためには書かれておらず、この弦楽八重奏曲もそのうちのひとつと、16歳の時の作品といえ、古典的な完成度が高く、彼の才能がいかに素晴らしいものであったかがよくわかる。8つの楽章によって創り出される濃厚な響きや立体的な(弦は室内楽で管弦楽的な響きを体現しようとした)は、その魅力が無限大であり、室内楽の傑作として愛されてきたこの作品から採り出すエネルギーは、響き手だけでなく聞き手も魅了する。

【第1楽章】Allegro moderato in su fuoco
【第2楽章】Andante
【第3楽章】Scherzo (Allegro leggierissimo)
【第4楽章】Presto
とりわけ特筆すべきは第3楽章の作曲過程であり、彼はグーテ『ファウスト』の「ヴァグネルの夜」に着想する台詞からインスピレーションを得たとされている。
——「響けとヒロロ」の響きの高み、

より白んでくる。清らかな空気が、華やかな風が過ぎ、何も感じなく去ってしまった。

また第4楽章は、第2主題によって提示されたモチーフがヴァイオリン、ヴァイオリン、ヴァイオリンの織り込まれている。対称的なモチーフと織りに絡み合いながらクワイマックスを召喚し、華やかに締め結ぶ。(坂戸 杏林)

エネスコ：弦楽八重奏曲 変ホ長調 Op.7
ジョージ・エネスコ(1881～1955)はルーマニアのヴァイオリン奏者、作曲家、指揮者、教育者である。4歳でヴァイオリンを弾き、5歳には作曲を始めるなど幼少期から才能を発揮し、7歳でウィーン音楽院へ進学する。1898年に一等を習得卒業し、次いでパリ音楽院へ入り、在学中から既に自作を含む演奏会パリの演奏を聴き、1902年にはベルリンでもデビューした。教育者としても活躍し、モウゼー、グリム、エネスコ、オトノスルを輩出している。

弦楽八重奏曲は彼のヴァイオリンソナタ第二巻を書き終えてから1年半後の1904年に作曲された。わずか19歳の青年の驚くべき成果と評価された。この39歳の青年の驚くべき成果と評価された。しかし39歳の青年の驚くべき成果と評価された。また、彼は1904年にパリでデビューした。彼は1904年にパリでデビューした。彼は1904年にパリでデビューした。

【第1楽章】Trio modesto
第1楽章は3つの7人による壮大なユニゾンにより曲は始まる。続いて1番ヴァイオリンと1番ヴァイオリンによって響けられる第2主題はルーマニア民謡のメロディと洗練されたメロディを兼ね備えている。
【第2楽章】Trio fougasse
Fougasse(フガッセ)と題されたこの楽章は一種の悪戯のスケッチのようなものである。8人全員がユニゾンで始まり巨大なワグとなる。
【第3楽章】Lament
愛情あふれる3楽章は神聖的な表情。
【第4楽章】Mouvement de valses dans rythme
連珠曲に次ぐ大膽な終結曲はこれまでの多くのヴァグやモチーフを見事に融合させた洗練した個性的なワグ。(伊東 裕)